

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

.....

● 雪原のトレッキング

開催日時：2012年2月19日(日) 10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、かんじき(レンタルあり)、スノーシュー

定員数：30名

参加費：一般=300円

賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

積雪により道がないところでも歩くことができます。一面真っ白の雪原で、冬に生きる動物・植物の姿を観察しながら、雪歩きを楽しみましょう。かんじき・スノーシューが必要な場合はご準備下さい。レンタルも可能(有料)です。



● 早春のトレッキング

開催日時：2012年3月18日(日) 10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット

定員数：30名

参加費：一般=300円

賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

厳しかった冬が過ぎ、3月に入ると八幡高原も少しずつ春の兆しが現れます。湿原や草原を歩きながら、いくつ春を見つけることができるのでしょうか？この時期だからこそそのトレッキングをして季節を感じましょう。



2012年も早1ヶ月が過ぎました。昨年末あたりから雪が一日中降り続ける日もあり、帰宅前に車の雪下ろしをする事態も度々起こっています。雪道の事を考え、朝は早めに出るのですが、その通勤中に燃えるような朝日に照らされた新雪の雪山を眺める機会がありました。普段見慣れている山がとても美しく感じられ、また、その時になって初めて、朝日が出る時間と重なっていることに気が付きました。毎日通る道でさえも日によって全く違う表情を見せるということ、強く体験したひと時でした。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 97 号

2012.2.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

－冬期閉館について

活動報告

－冬を生きる動物達の生態

観察会案内

－雪原のトレッキング

－早春のトレッキング

お し ら せ

●冬期閉館についてのお知らせ

高原の自然館は冬期閉館中です。
閉館期間と連絡先は以下の通りです。

冬期閉館期間：2011年11月26日（土）～
2012年4月24日（水）

連絡先：北広島町役場芸北支所
〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田 75

TEL：080-6334-8601（西中国山地自然史研究会）

FAX：0826-82-3009

観 察 会 報 告

●冬を生きる動物達の生態

開催日時：2012年1月15日(日) 10:00

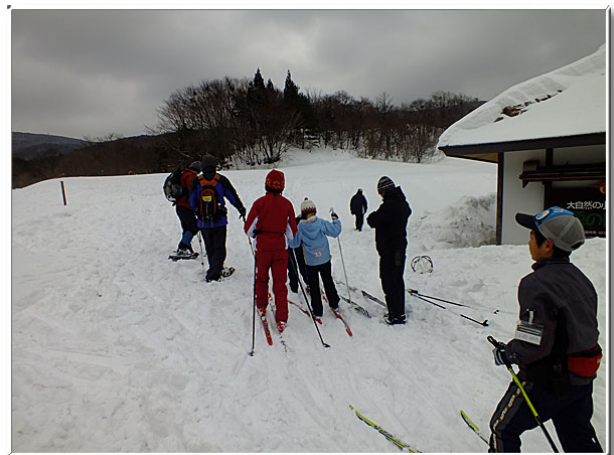
講師：上野吉雄

新年最初の観察会となる「冬を生きる動物達の生態」の観察会が実施されました。天候は曇りでしたが、高めの気温に弱い風と、歩きやすい一日になりました。高原の自然館に14名の方が集合し、上野先生に今回の観察会のポイントなどを教わりました。今回は自然館の裏手から“おーいの丘”を通過して千町原まで行き、道路に出て自然館の正面へと戻る、というコースを歩きます。雪の深さは60cmほどで、しばらく雪が降らなかったためか雪の上もしっかりと歩いていました。かんじきやスノーシューを履いて歩き始めると、すぐに動物の痕跡を見つける事が出来ました。上野先生に見ていただくと、テンのものであることが分かりました。そのそばにはフンもあり、フンを見ると何を食べているのか知る事ができます。このテンは植物の実を食べていたことが分かりました。自然館の裏手を登っていくとウサギの痕跡を発見しました。後足と前足の跡がそれぞれ特徴的で、足跡を見ればどの方向に進んでいたか分かります。進んでいる方向には背の低い木があり、その枝には食痕がありました。ウサギが枝を食べるとその先が鋭く尖るため、すぐにウサギによるものだと分かるそうです。山道に入るとネズミの足跡を見つけました。上野先生は「足跡に混じって真ん中に一本、線が通っているのが分かる。これは長い尻尾が引きずられてついたもので、八幡の山に住む尻尾が長いネズミとなると、この足跡はアカネズミのものだろう」と話されました。アカネズミは木の根元の、雪が積もっていない場所に続いていて、昨晚はそこを寝床にしていたことがわかりました。冬に活動しているのは哺乳類だけではなく、雪の上でよく眼を凝らすと、トビムシの仲間が跳びはねているのが分かります。他には雪の上を歩き回るクロカワゲラの仲間や、ガガンボなどの小さな昆虫達を観察することができました。「食べ物が少ない冬だけど、そのかわり天敵も少なく、寒さなどに適応が出来れば以外と過ごしやすいのかもしれない」ということを昆虫達を眺めながら考えました。千町原を歩いているとど

こからか鳥のさえずる声が聞こえてきました、辺りを見回してみるとツグミの群れを見つけました。「例年ならカラ類などの留鳥がたくさんさえずっているが、今年の冬はそれが聞こえない。一昨年の猛暑で木の実ができず、その年の冬の豪雪と春の到来の遅さが重なって、木の実を主食とする冬鳥と留鳥が多く命を落とした。50年鳥の観察を続けているが、こんなに静かな冬山は初めて」と上野先生が話されました。じっと息を潜めて春を待つようなイメージがある冬ですが、実際は様々な動物達が活動をし、またその痕跡をはっきりと見られ、動物達の様子を理解しやすい季節であると感じた観察会でした。[ありみつまさかず]



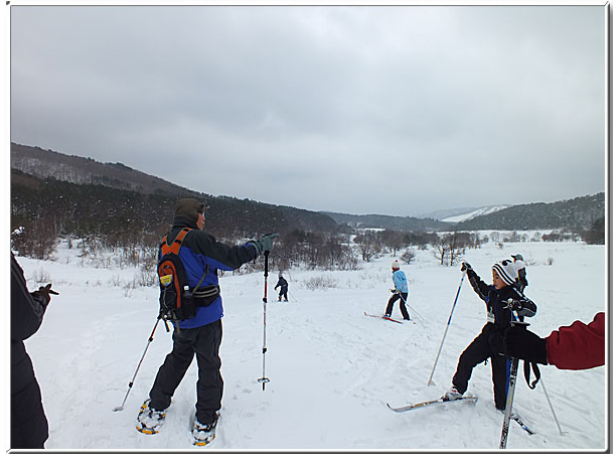
雪に埋もれる山麓庵。屋根の雪が落ちて周囲に高く積もっている。



かんじきやスノーシュー、クロスカントリー用のスキー板と、雪の上を歩くための道具が勢揃いした。



八幡に自生する常緑樹の1つのエゾユズリハ。ヤマドリなど色々な動物がその葉を食べる。



「おーいの丘」から千町原へと下る。スキー板の出番！



雪道を登る。途中では色々な生き物が活動している痕跡を発見できた。



雪の上を歩き回るカワゲラの仲間。



たくさんの実を残しているツルウメモドキ。今年は実を食べる野鳥が少ないためか、このような木があちこちで見つかった。

【みなさんの印象に残った物】

「色々な足あとを見れた」「重歯目のウサギの鋭角の食痕(2)」「おしっこのあと。親ウサギは1.5m位飛んだ足跡」「鳥が非常に少なかった事。気候が大変影響する事だと思いました」「ネズミの足跡を見たこと」「テンの足の指は5本あるのがわかりました(2)」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「楽しかった(3)」「楽しかったけどつかれました」「テン、ウサギ、アカネズミ、ヤマドリ等の足跡の観察が良く出来た事」「鳥が一昨年の猛暑が原因で死んで、今日もほとんど見れなくて残念でした(2)」「下りが楽しかったです」